

比較的構造の大きな住宅を取得している。

2、貸し付け事由の推移

住宅貸し付けにおける貸し付け事由のうち、住宅の新築・購入については五十年度を頂点に漸減しており、これに代って増・改築のための貸し付けがふえてきているが、このことは、主として次のような理由によるものと推測される。

① 最近における住宅の新築、購入等には莫大な資金を必要とし必然的に借入金も多額となり毎月の弁済金が家計経済を圧迫することになるので、住宅の新築、購入等は見合わせざるを得ない実態にあると思われる。

ること。

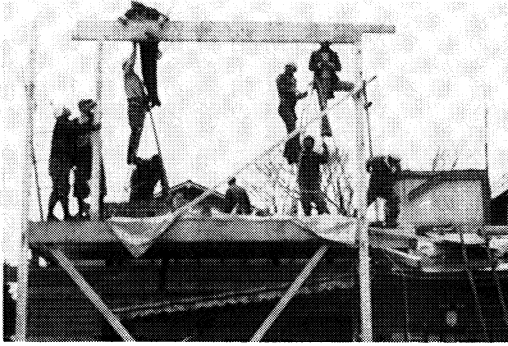
② 組合員のうち、中・高年齢層に

ついては、その大半が既に自宅を保有し、住宅の新築・購入等の必要がなく、子弟の成長に伴う増築、あるいは老朽化による改築等を必要とする時期にあると考えられること。

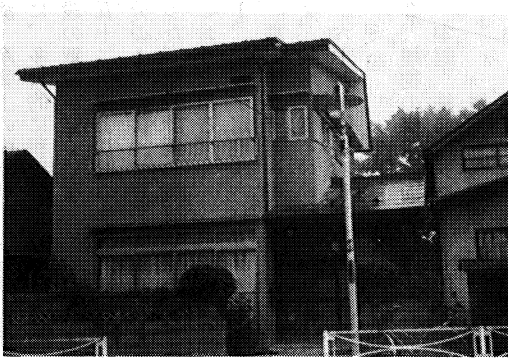
(六) 住宅貸し付けの見とおし

明年度における貸し付け資金わくについては、大体本年度と同額程度を見込まれるが、住宅貸し付けについては組合員の需要が漸減の傾向にあるので五十年度から実施してきた住宅貸し付けの特別規制は、可能な限り解除したいと考えてある。

※ 共済貸し付け金による住宅の増・改築（城西小H先生宅）



増・改築前



工事完了後

五、宿泊保養施設の整備

(一) 飯坂保養所（あづま荘）の現況

あづま荘の運営の状況は、五十一年度の社会経済の低成長ムードが影響し、全国的な傾向として組合員等の旅行の減少となり、宿泊利用率が低下し、五十年には宿願の黒字経営を達成したが、再び赤字経営に逆戻りする結果に終わった。

その利用状況と収支決算の概要は次のとおりである。

1、昭和五十一年度利用人員の状況

(表11)

左表について、県内、県外の利用率はほぼ半々であり、さらに組合員と組合員外の分類においては、組合員が八〇％組合員外が二〇％でありあづま荘が教職員の福祉に大きな役割を果たしていることが明示されて喜ばしいことである。ただ、五十年以上に比し宿泊人員において千三百三十三人、宿泊外において千四十九人の減少となっているが、これは冒頭

表11 宿泊利用関係

(1)

区分	組合員	組合員外	計
自支部	8,804	2,685	11,489
他支部	8,490	2,886	11,376
合計	17,294	5,571	22,865
利用率			64.59%

(2) 宿泊外利用関係

区分	人員	区分	人員
会議	12,673	休憩	1,145
宴会	1,100	合計	17,110
婚礼	2,192	ひろう宴組数	28組
小計	15,965	利用率	17.15%

表13 宿泊利用関係(8月31日現在)

(1)

区分	組合員	組合員外	計
自支部	2,880	767	3,647
他支部	4,537	1,147	5,684
合計	7,417	1,914	9,331
利用率			61.39%

(2) 宿泊外利用関係

区分	人員	区分	人員
会議	4,178	休憩	317
宴会	674	合計	5,822
婚礼	653	ひろう宴組数	8
小計	5,505	利用率	14.56%

表12 昭和51年度収支損益状況

(単位:円)

科	目	50年度	51年度	増	減
取	収入	145,469,452	149,665,102	4,195,650	
	商品売上	13,769,908	13,873,274	103,366	
	配当金	1,398,055	1,760,203	362,148	
	雑収入	257,100	186,800	△ 70,300	
	貸付	198,665	94,990	△ 103,675	
	合計	161,093,180	165,580,369	4,487,189	
	支	費用	59,898,489	64,261,952	4,363,463
人件費		42,061,812	45,892,107	3,830,295	
材料費		27,887,956	35,723,916	7,835,960	
小原価		129,848,257	145,877,975	16,029,718	
償却金		12,333,340	11,639,026	△ 694,314	
利息充		14,172,363	13,732,855	△ 439,500	
調整分		1,170,425	1,105,910	△ 64,515	
合計	157,524,385	172,435,772	14,911,387		
損益	3,568,795	△ 6,855,403			

3、昭和五十一年度利用者の現況(表13)

に記述したとおり全国的すう勢であり、また飯坂町一般ホテル旅館における現象とも相通ずるところである。昭和五十一年度収支損益の状況は昭和五十一年度の損益状況は表12のとおりである。

五十一年度は宿泊料金を値上げせずすえ置いたが利用客の減少と支出の増加に伴い赤字決算となった。